

使徒ヤコブとダビデの王座

2013年7月5日 アシエル・イントレータ

新約聖書の冒頭はアブラハムからダビデに至るイエシュア(イエス様)の系図で始まっています(マタイ 1:1-17)。強調されているのは、イエシュアの「養」父であるヨセフがダビデの家系にあり、イエシュアは生まれながらにしてダビデの王座を継ぐ権利を、律法的にも備えていたということです。

使徒 15 章には、御国における異邦人の役割について長老たちと使徒たちが議論しています。その審議会では、パウロやペトロといった紀元 1 世紀の信仰者のコミュニティーの霊的權威の先達たちが一堂に会しました。そこではイエシュアの弟であるヤコブが議長を務めていたことが見られます(使徒 15:19)。

なぜ彼はそれほどの高い權威を与えられていた程尊敬されていたのでしょうか。ひょっとしたらイエシュアとともに育っていくうえで、より深い知恵や誠実さを獲得していったのかも知れませんが、単にイエシュアの弟だからだったのかも知れません。しかし私は、その他に2つの理由があったと信じます。一つ目は家系に由来するもので、もう一方はエルサレムのCongregationに関連するものです。

ヤコブはマリア(ミリヤム)とヨセフとの間に生まれました。ということはダビデの直系の子孫であり、イエシュアと同じく、律法的にダビデの王座に就く権利を持っていたのです。使徒たちは、ダビデの王権と彼らの議長との間に契約の關係を見いだしたのです。

ペトロが御国の鍵を渡され(マタイ 16:19)、パウロは地の果てまで福音を伝えるリーダー的使徒となった一方(使徒 1:8)、ヤコブは、おもに「律法に重きを置く」ユダヤ人信者を中心に形成された、エルサレム地方の信仰コミュニティーの監督的使徒として仕えました(使徒 21:20)。

ダビデの契約とその都との關係を保つことは、過去 2 千年間流浪の状態にあった教会にとっては適当でないように思えるかも知れませんが、イエシュアの再臨の時が近づくに従って、やがて新しい意味を持ってくるのです。

正統派ユダヤ教徒は、ダビデの王座が回復されるように 1 日 5 回祈ります。このことはユダヤ教とイスラエル政府の両方に関連しています。そしてまた異邦人教会とメシアニックの残された者たちにとっても意義あるものなのです。「御名によって来られる方に栄光あれ」(マタイ 23:39) という祈りはイエシュアが再臨し、ダビデの王座に就かれることの呼びかけなのです(イザヤ 9:5-6)。

ダビデとの神の契約は、地上における神聖な支配の權威を確立するための、律法機構です(II サム

エル 7:13-16)。エルサレムの審議会では、イエシュアがやがて戻られ、地上を支配するという望みを保つためのその契約に立ち返る霊的権威への認識があったのです。

ダビデの契約との家系的関係がイエシュアの誕生に必要であったように、同じような関係が再臨の準備においても重要なのです。イエシュアが再臨され、ダビデの王座に就くのを迎える用意をするにあたって、正当なユダヤルーツをもった回復されたメシアニックの使徒的チームのひとつの形態、またはエルサレムの審議会は、異邦人の教会が正しい方向性の補正ができるように援助できるのです。

傷つかない心

フランシス・フランジペイン

神は、私たちのため、傷つけられることのない新しい心「傷つかない心」を用意しておられる。傷つかない心をもっていることは、単なる選択肢の一つや(本来必要のない)贅沢品というわけではありません。傷ついた心は、「石の(ような固い)心」となってしまう可能性を秘めています。(エゼキエル 36:26)。

私たちが心に受けた傷を心の中で培養する時、深刻な霊的影響の原因となります。誰かに傷つけられた時、たとえその人が私たちの愛する人であっても、その人のところに行くべきです。もしその相手と話し合わなかったら、私たちはその人のことを話し(中傷し)始めるのです。私たちは彼らの背後で彼らの弱さや罪について、悪意をもって囁くことで、その関係を裏切っているのです。裏切っていること誤摩化すため、アドバイスや相談を求めているだけだと言います。だけど後で気付いてみると、とても否定的に、ありとあらゆる人にしゃべってしまっているのです。その真の目的は、私たち自身の霊的助けを得るためではなく、傷つけた本人への仕返しを意図しているのです。

人々は大石にはつまずきませんが、小石---比較的小さなものにつまづくのです。それはもしかすると、友人か家族が私たちの期待を裏切った場合かも知れませんが、そのようにして私たちは傷つくのです。

主よ私たち自身がこれほど傷つけられ易く、引きずっていることをお許してください。また私たちにイエスキリストのような傷つかない心をお与えください。記事の全文は[こちら](#)をご覧ください。 [here](#).

エジプトへの祈り

ムスリム同胞団は、政府を乗っ取り、シャリア(イスラム)法を制定するという意味をもった「政治的」イスラムという概念の創始者でした。彼らはまたガザ地区におけるハマスの支持基盤でもあるので

す。たった 1 年間で政権の座から下ろされてしまったことは、中東全体にショックを波及させることでしよう。

エジプト軍のリーダー、アル・シシ将軍が最高権威者として台頭してきました。彼のリーダーシップのもと、今年イスラエルとエジプトの間の安全保証協力関係を築いてきました。

エジプトの状況については、来週アラブやイスラエルの情報源からのより詳細な解析を待ちたいと思います。今は先ず祈りましょう。

- エジプトの新生クリスチャン共同体が信仰によって強められますように。
- 福音伝道の中に、今までにない程数多くのブレイクスルーが起こりますように
- イスラエルとエジプト間の安全保障体制が安定しているように
- エジプト軍が引続き緩和する力となり、ムスリム同胞団過激派を抑止して行きますように
- 世界中のアラブ人がイスラム的政府転覆は良い解決策ではないということに気がきますように
- 新しい連立政府が基礎的な経済改革やその他の社会サービスを充実させることができますように。